



「埋蔵文化財発掘調査②」

はじめに

今月も埋蔵文化財の保存方法について、市教育委員会が過年度に実施した調査成果の一つを例に紹介します。

緊急発掘調査について

前回、埋蔵文化財は、なるべく発掘調査をせずに現地に残すことが最も良い保存方法であることを述べました。しかし、開発の計画で、埋蔵文化財の破壊を避けられない場合、着工前に緊急発掘調査を行います。なお、遺跡の範囲の中で開発行為を行う場合、工事開始予定の60日前までに施主様から文化庁へ市教育委員会を介して届出を行う必要があります。基本的には、この60日間で緊急発掘調査を行います。調査前に地下の状況を正確に把握することは困難です。そのため、検出された遺構の状況から、予定期間内に調査を終了できないこともあり、関係者の皆様にご迷惑をおかけしたこともありました。極力工事の進捗に支障をきたすことのないように努めますが、今後も文化財調査にご理解いただけると幸いです。

記録保存について

緊急発掘調査では、破壊を受ける遺跡を「記録」として残すので、この保存方法を記録保存と呼びます。記録の仕方には様々あり、所見、写真、実測図をとる

ことが一般的ですが、最近では墓等の構築物の場合は、レーザー測量による三次元復元も取り入れていきます。

ところで、遺構のような不動産的な埋蔵文化財は基本的には現場で記録保存を行う以外にありません。また、一度掘削すると修復することはできません。そのため、緊急発掘調査は、工事着工予定日に間に合わせるための限られた時間の中で、調査の精密性を保持する必要があることから、困難な調査となる場合も少なくありません。

喜友名東原又バタキ遺跡

この遺跡は、県内外でも著名な遺跡で、昭和63年に行なわれた試掘調査で確認された縄文時代晩期に相当する集落遺跡です。平成25年に共同住宅建設に係る緊急発掘調査を行った結果、約7基の竪穴建物や十数基の土坑等が検出されました。また、大量に廃棄された土器群や、サメ歯製品等の貴重な遺物も出土しています。

このような状況のため、予定期間内に調査を終了することができず、近年稀に見る「困難な調査」となりました。最終的に全ての遺構の記録保存を行いました。また、竪穴建物のうち一基は遺構剥ぎ取り等も行い、できる限りの保存を試みました。施主様をはじめ関係各位にはこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。

問合せ：文化課 ☎899314430

茶ぐわーゆんたく

141

初詣にみる光景から

2016年、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願います。

新しい年を迎えて新年の決意、家族の健康を願うものであります。その気持ちは、今も過去も変わらないものです。

正月には、各家庭で若水の行事が行われていました。これは元旦早朝、おもに子ども達が桶を担ぎ、地域の湧き水から水を汲んできました。親はその水を使ってお茶を作り、仏壇に供えて、この一年の家族の健康を願いました。子どもがおらず、お年寄りしかいない家では近所の子ども達にお願いし、そのお礼としてお駄賃をいた、たいたそうです。

また、普天間の普天満宮には、初詣の参拝者が訪れていました。2枚の写真はその初詣の際に家族で写したものです。戦前、人びとにとって写真を撮ることは、とても稀なことでした。初詣だけでなく、県外へ移民、出稼ぎに行った肉親へ近況を知らせる意味で家族写真を撮影し、元気な姿を伝えようと送っていました。そのため、家族写真のほとんどが普段着ではなく、晴れ着を着けての撮影でした。新年を迎え、新たな気持ち、そして遠くで生活する肉親に対して、少しでも安心と励ましの気持ちを込めた優しさを感ずります。

現在では当たり前のようにデジタルカメラや携帯電話、スマートフォン等を使って簡単に写真が撮れる時代となりました。初詣先で家族や友人で撮影する様子も見なれた光景です。一昔前にはカメラで撮影すること自体、めったにない機会でしたが、写る笑顔は、昔も今も変わらない家族への思いやり、友達との友情、楽しさが伝わります。



▲1943(昭和18)年・普天満宮



▲1941(昭和16)年・普天間

「宜野湾市史」への問合せ
市立博物館 ☎870-9317